

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394200139		
法人名	社会福祉法人 長福会		
事業所名	グループホームデイパーク大府 1F		
所在地	大府市横根町箕手94番3		
自己評価作成日	平成31年2月15日	評価結果市町村受理日	令和元年5月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の言葉を傾聴し、共感する。 利用者に寄り添いながら生活する。
--------------------------------------

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyvoCd=2394200139-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyvoCd=2394200139-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、運営法人の関連事業所に特養やデイサービスがあることで、利用者や家族の状況等にも合わせた柔軟な支援が行われている。特養やデイサービスで行事が行われる際には、ホームからも利用者に参加する機会をつくり、利用者の外出の機会にもつながっている。地域の方との交流等については、関連の特養と連携しながら行われているが、定期的な運営推進会議の際には、地域の方の参加が得られていることもあり、ホーム独自の交流の機会がつけられている。日常生活については、利用者ができることに参加する取り組みが行われており、食事の準備や片付けや洗濯物をたたんだりする等、利用者が毎日の生活が前向きなものになるような支援が行われている。また、運営法人全体で職員研修や職員の個別面談の機会がつけられており、職員の資質向上に向けた取り組みが行われてい
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成31年3月18日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	グループホームが開設前にお話をされ数か月後に再確認の為職員で共有している為少しずつ出来ていると思う。	運営法人の基本理念をホームの支援の基本と考えており、ホームでも理念の実践につながる取り組みを目指している。また、職員間で目標をつくる取り組みを実施しながら、理念の共有と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	夏祭り、地域のお祭りに参加して交流を深めている段階です。	地域の方との交流は、運営法人全体で行われており、特養やデイサービスで地域の方との交流が行われる際には、ホームからも参加する機会をつくっている。また、ホームでも独自の交流の取り組みが行われている。	地域の方との交流は、関連の特養やデイサービスを通じて行われていることが多いが、ホームでも地域の方との交流の機会が増えるように、今後の取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	本館の喫茶店やリハビリマシンを開放して使用してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回家族の方、社会福祉協議会の方など参加して頂き取り組み状況など報告し意見交換している。	会議には、地域の方の参加が得られていることで、会議を通じて地域の方との情報交換の機会にもつながっている。また、家族の出席も得られており、家族にホームへの理解を深めてもらう機会にもつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	電話のやり取り時には施設訪問もあり協力関係を築くように努力している。	行政の関係部署との連携等は運営法人全体で行われており、市内の介護事業所が集まる連絡会等への参加や地域包括支援センターとの連携及び協力の取り組みが行われている。また、市の福祉フェアへの参加、協力取り組みも行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年に1回身体拘束の勉強会もありグループホームでは今の段階では玄関の施錠はしている。	ホーム内の施錠については、利用者も開閉することが可能な構造であることで、職員間で連携した利用者の見守りが行われている。また、専門の委員会を通じた検討会議や職員研修を実施しており、職員の振り返りの機会につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	委員会もあり職員の話し合いができる環境である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度については知っているが詳しくは知らないので必要な時は上司と話し合いを設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	直接まだ携わっていないが十分な説明や家族の方の理解は出来ていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様や家族の方の意見要望を職員と共有して反映につなげる努力をしています。	関連の特養やホームで行われている行事の際には家族への案内を行っており、家族との交流が行われている。家族からの要望等については、内容にも合わせて管理者や施設長での対応が行われている。また、毎月の利用者毎の便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見など聞き反映するよう努力しています。	毎月の職員会議や日常の情報交換等を通じて、管理者やリーダーが把握した職員からの意見等は、運営法人の会議等で検討され、ホームの運営への反映につなげている。また、定期的な職員面談が行われており、職員一人ひとりの把握が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	働きやすい環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修、新人研修を受ける取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	今の所同業者との交流をしたことがありません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	困っていることがあれば傾聴し寄り添うケアを努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の要望意向を聞きながら信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	職員間で話し合いをし統一したケアに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	調理を一緒にしたり洗濯物をたたんでくれたりと共有した時間を過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人と家族の絆を大切にしているがそうでない人もいるのでその分本人を支える努力はしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出に行ったり馴染みの人来ていただいたりして支援に努めている。	関連事業所にホームの利用者の身内の方が生活している方があり、職員の支援も得ながら交流の機会をつくる等の取り組みが行われている。家族との交流も行われており、食事や買い物等を通じた外出や身内の方の法事等を通じた交流も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	皆で一緒に食事をしたりレクに行ったり散歩したりして交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	今の段階ではないです。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一緒に時間を過ごし会話をする事で希望意向の把握に努めている。	職員間で利用者を担当する取り組みを行いながら、利用者の意向等の把握を行い、職員間で共有する取り組みが行われている。また、毎月のカンファレンスを実施しており、利用者の意向等を日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人の話を聞きながら職員間で情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護記録を記入し職員間で申し送りを行い日々観察をし職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	疑問や改善策について話し合いを行っている。	介護計画については、利用者の変化等に合わせた検討や見直しが行われている。日常的にも職員間で支援内容を細かく記録に残す取り組みが行われており、カンファレンスやモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	介護計画の見直しまでの期間が1年以上の長期になることがあるため、より短期間での介護計画の見直しやモニタリングの実施に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々様子変化は記録に記入し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	急な受診や親族の長時間訪問での飲食等		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	共同生活をし24時間生活を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人家族の意向を尊重している。	協力医による医療面での支援が行われているが、利用者の中には、今までのかかりつけ医を継続している方もいる。受診は家族による対応を基本としているが、ホームでも支援が行われている。また、看護師が勤務しており、医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職と連携して情報共有に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今の所対象となる利用者様がない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	今の段階では具体的には進んでいない。	運営法人全体で利用者への支援を行うこととしており、ホーム単独での看取り支援を想定していないことを家族にも説明が行われている。ホームでも可能な支援を想定しており、関連の特養と連携した職員研修等が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年に1回勉強会があり対応について学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を実施して行き職員間で共有できるように努力している。	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練や通報装置の確認等の取り組みが行われている。関連の特養とも連携した対応も行われており、地域の方との協力関係も含めて、法人全体で災害対策が行われている。	備蓄品については特養で管理しているが、深夜や暴風雨時等、職員が備蓄品を取りに行けない状況も考えられる。一部の備蓄品については、ホームでも確保する検討にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に意識をし声掛けが出来る。	職員による利用者への言葉遣い等の対応については、日常的に職員間で意識し、注意を促す取り組みが行われている。また、運営法人を通じた接遇に関する職員研修が行われており、職員の振り返りの機会につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	時折職員の都合もありますがその人のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の意思に沿っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員と一緒に準備したり片付けをしたりしています。	おかず類については、関連事業所の厨房から提供されているが、ご飯と汁物はホームで用意している。日常的に利用者も盛り付けや片付け等に参加する機会をつくっている。ホームでもおやつ作りや行事食等の取り組みが行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	本人の状態に合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人一人に沿った支援をしている。	日常的に排泄に関する記録を残しながら職員間で情報を共有し、利用者に合わせた排泄支援に取り組んでいる。トレイでの排泄が困難な方についてもカンファレンス等を通じて、トイレでの排泄につなげている。また、排泄に関する医療面での支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々に合わせた取り組みも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	個々に沿った入浴を意識していますが中々職員の都合で入浴している部分もみられる。	週2回以上の入浴の支援が行われており、利用者の中には、毎日のように入浴している方もあり、希望等にも対応している。入浴を拒む方にも毎日の声かけを継続しながら、段階的に入浴につなげている。また、季節に合わせた柚子湯の入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人一人に沿った支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員全員服薬の支援し観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	職員間で情報共有して支援に心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	天気の良い日は散歩に誘ったり、外出レクなど行って気分転換している。	ホームの近隣に関連の特養があることで、特養やデイサービスの行事の際にはホームから出かけており、利用者の外出にもつながっている。年間を通じた外出行事を実施しており、関連事業所と自動車の調整を行いながら外出する取り組みが行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の管理ができる人は管理してもらい必要な時に出してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	必要な時に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者様と一緒に空間作りに取り組んでいる。	ホームのリビングや通路は白色を基調とした壁紙であることで、利用者は日中を明るい雰囲気でも過ごしている。ホームの近隣に畑があり、野菜等を植えている。また、壁面には季節に合わせた飾り付けや利用者の作品等の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間で席を近くにして気の合った利用者様同士で会話できるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅にあった布団や家具、食器類など使い慣れたものを使用している。	居室には、利用者や家族の意向にも合わせた馴染みの家具類や好みの物等の持ち込みが行われており、利用者に合わせて居室づくりが行われている。また、利用者の状況等にも合わせたベッドの位置の検討等も行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	家具の配置、お風呂、トイレ設備など工夫している。		